

風しん患者が増加しています

7月下旬頃から関東地方を中心に風しん患者数の報告が増加し、近隣では愛知県の患者数が増えています。三重県における風しん患者数も例年になく増加しています。

風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、胎児にも感染し、目や心臓、耳等に障害をもつ（先天性風しん症候群）子どもが生まれることがあります。

先天性風しん症候群の発生を防ぐためには、妊娠する前に予防接種を受けることが最も有効な予防方法です。既に妊娠している場合は、ワクチン接種を受けることができませんので、妊娠した女性への感染を防ぐため、周りの方による配慮（予防接種等）が必要となります。

風しん患者の発生状況について

(人)

年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年 *
三重県	8	7	1	1	13
全国	319	163	126	93	952

*平成30年の三重県分は10月7日現在、全国分は9月30日現在

風しんについて

感染経路は飛沫感染（咳やくしゃみで飛び散ったウイルスを吸い込むことで感染）で、感染すると約2～3週間後に、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。発疹の出る前後約1週間は人に感染させる可能性があります。

症状は、子どもがかかると軽症で、3日位で症状が治まることから、「3日はしか」とも呼ばれています。大人がかかると発熱や発疹の期間が長く続いたり、関節痛がひどくなるなど、子どもより重症化することがあります。また、まれに脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、決して軽視はできません。

風しんを予防するために

- ① 風しん定期接種の対象者は予防接種（2回）を受けましょう。

【対象年齢】 1期：1歳以上2歳未満

2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間

- ② 定期接種対象外の方

これまでに風しんに罹ったことがない方、風しんワクチン未接種の方、風しんに対する抗体が不十分な方で、特に、次の方は予防接種を検討しましょう。

- ・10代後半から40代の女性（特に妊娠希望者または妊娠する可能性の高い者）

（※妊娠中の方は予防接種を受けることができません。また、接種後2か月は妊娠を避ける必要がありますのでご注意ください。）

- ・妊婦の夫、子ども及びその同居家族
- ・ワクチン接種が任意接種の世代である30代～50代の男性

風しんに罹ったと思った時の対応

- ① 体調がすぐれない場合は無理して外出しないようにしましょう。
- ② 風しんを疑う症状が現れた場合は、周囲への感染を防ぐため、必ず事前に医療機関に電話をして、その旨を伝え、医療機関の指示に従って受診しましょう。
- ③ 受診の際にはマスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて受診しましょう。

風しん抗体検査事業について

本県では、「妊娠を希望する女性」、「妊娠を希望する女性の配偶者などの同居者」、「風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者などの同居者」を対象に、希望者が無料で受けられる風しん抗体検査事業を実施しています（抗体検査歴、予防接種歴、罹患歴が明らかな方を除く。）。

詳しくは、最寄りの保健所にご相談ください。